

B工区地質記載シート

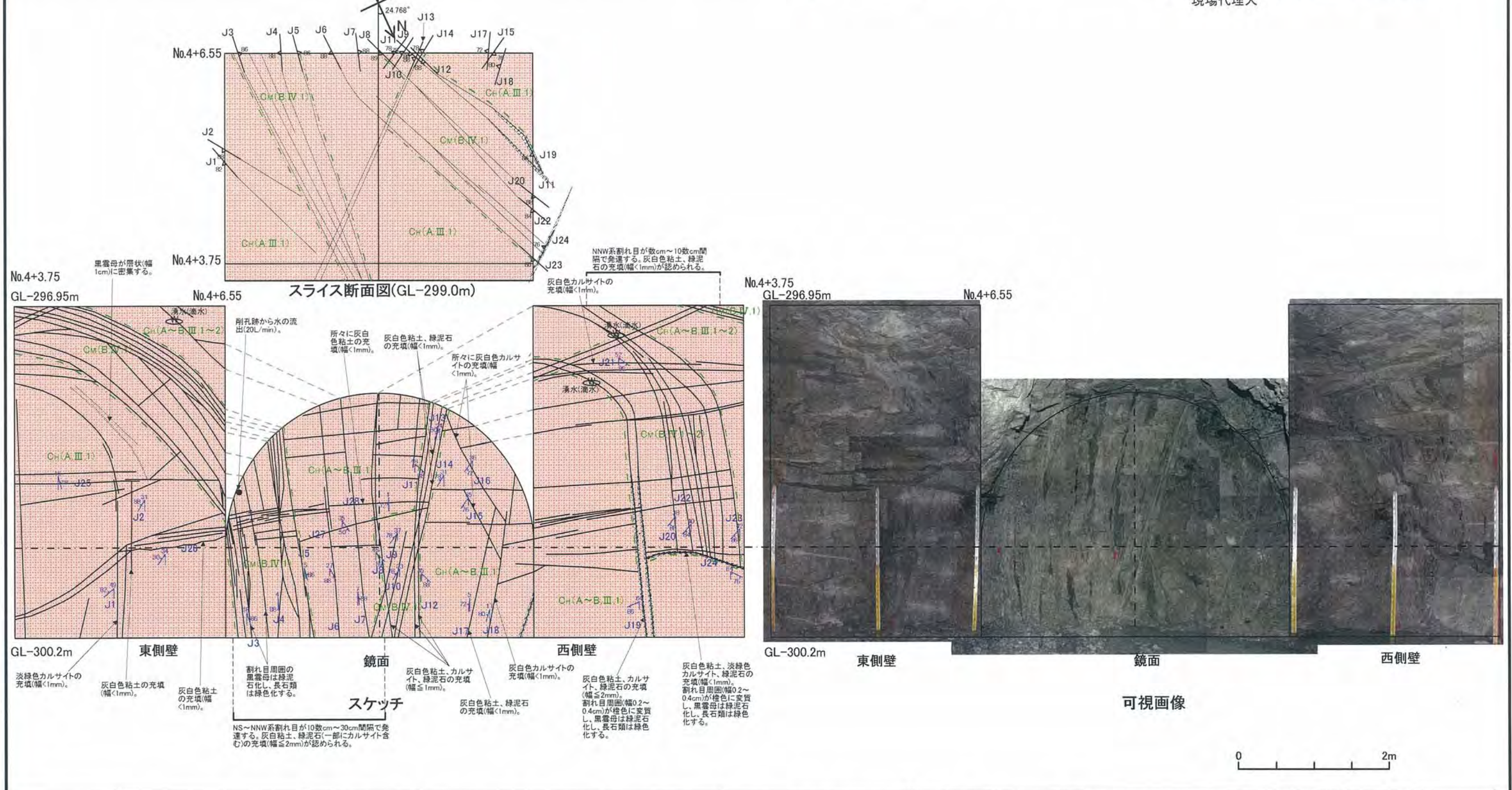
番号: B3-請負-計測工(地質)- 00040

シート番号	158	日時	2008/12/5 2:00~5:15	位置・深度	300B ST1-2 GL-296.95~300.20m No.4+3.75~No.4+6.55m	観察・撮影者	
-------	-----	----	------------------------	-------	---	--------	--

- 凡例
- 花崗岩
 - 変質部
 - 黒雲母密集部
 - 割れ目
 - 割れ目の傾斜・計測角
 - 湧水
 - 岩級区分境界
 - 削孔跡

総括監督員	主任監督員	監督員
-------	-------	-----

請負人 清水・鹿島・前田特定建設工事共同企業体
現場代理人



岩種	花崗岩	風化	α(新鮮)	RMR値	-296.95~300.2m 59	特記事項 ・中~粗粒花崗岩(灰白色): 等粒状の黒雲母花崗岩。鉱物の粒径は石英が5mm前後でしばしば複数個が1cm程度の集合体をなす。長石類は3~20mmである。黒雲母は1~10mmである。有色鉱物の割合は7~10%程度である。 ・ハンマーでの打撃音は金属音~少し濁った音であり、岩盤は比較的堅硬である。変質は一部の割れ目の周囲に限られ、壁面全体では岩石は概ね新鮮である。岩盤等級は、高角度割れ目が卓越する東側壁の一部、高角度割れ目と低角度割れ目が発達する鏡面の中央および鏡面のE側、西側壁の一部では割れ目間隔が数cm~20cmであるためCH級。その他の壁面はOH級である。 ・主な割れ目として28条を抽出した。鏡面では高角度割れ目、低角度割れ目が多くみられ、高角度割れ目の挟在物は灰白色粘土、緑泥石である。低角度割れ目は灰白色粘土、カルサイトを挟在するが、充填率は少ないものが多い。また、低角度割れ目は高角度割れ目で止まるものが多い。進行するものや、細かい割れ目を伴うものが認められる。J5とJ14の間に発達する低角度割れ目どうしの間隔は30cm程度である。 ・J19やJ24などの一部の高角度割れ目(W側)の周囲は橙色に変質している。J19では上部の変質は明瞭でない。また、J3、J19、J24の割れ目周囲では黒雲母は緑泥石化し、長石類は緑色化する。 ・湧水は、J4、J19、J22で湧水程度がみられる。その他の壁面でも湧出程度の湧水が存在する可能性はある。また、鏡面のE側の削孔跡から20L/minの流出がみられた。 ・当箇所はボーリング構坑であり、進行する方向はおおよそS25°Wである。 ・壁面観察は鏡面から2.8m離れた場所より目視観察で実施した。
岩相	中~粗粒花崗岩(灰白色)	変質	1(非変質) (一部2(弱変質)を含む)	岩石試料番号	なし	
		湧水	滴水	採水試料番号	なし	
		電研式岩級	-296.95~300.2m CH(A~B,III,1~2) -296.95~300.2m CM(B,IV,1~2)			

B工区地質記載シート

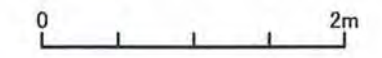
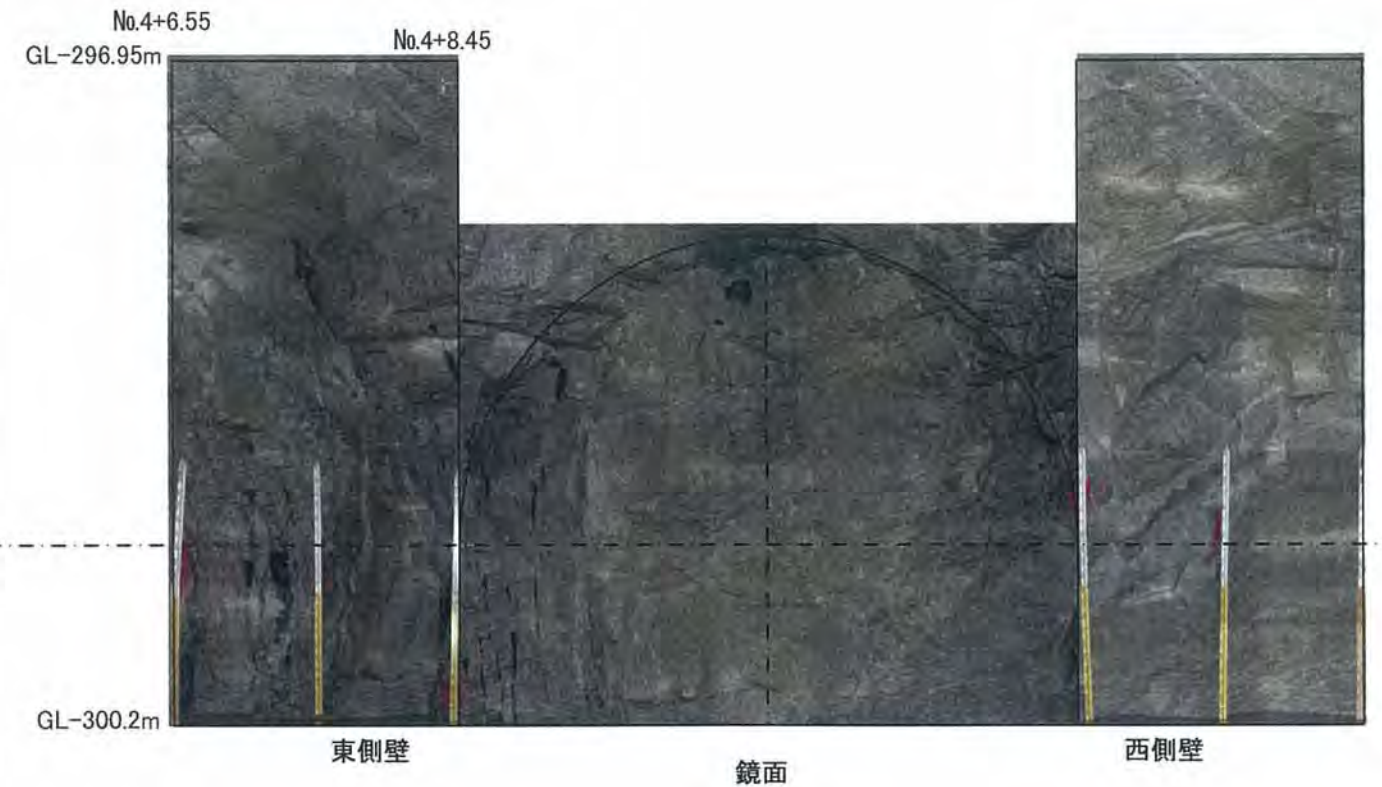
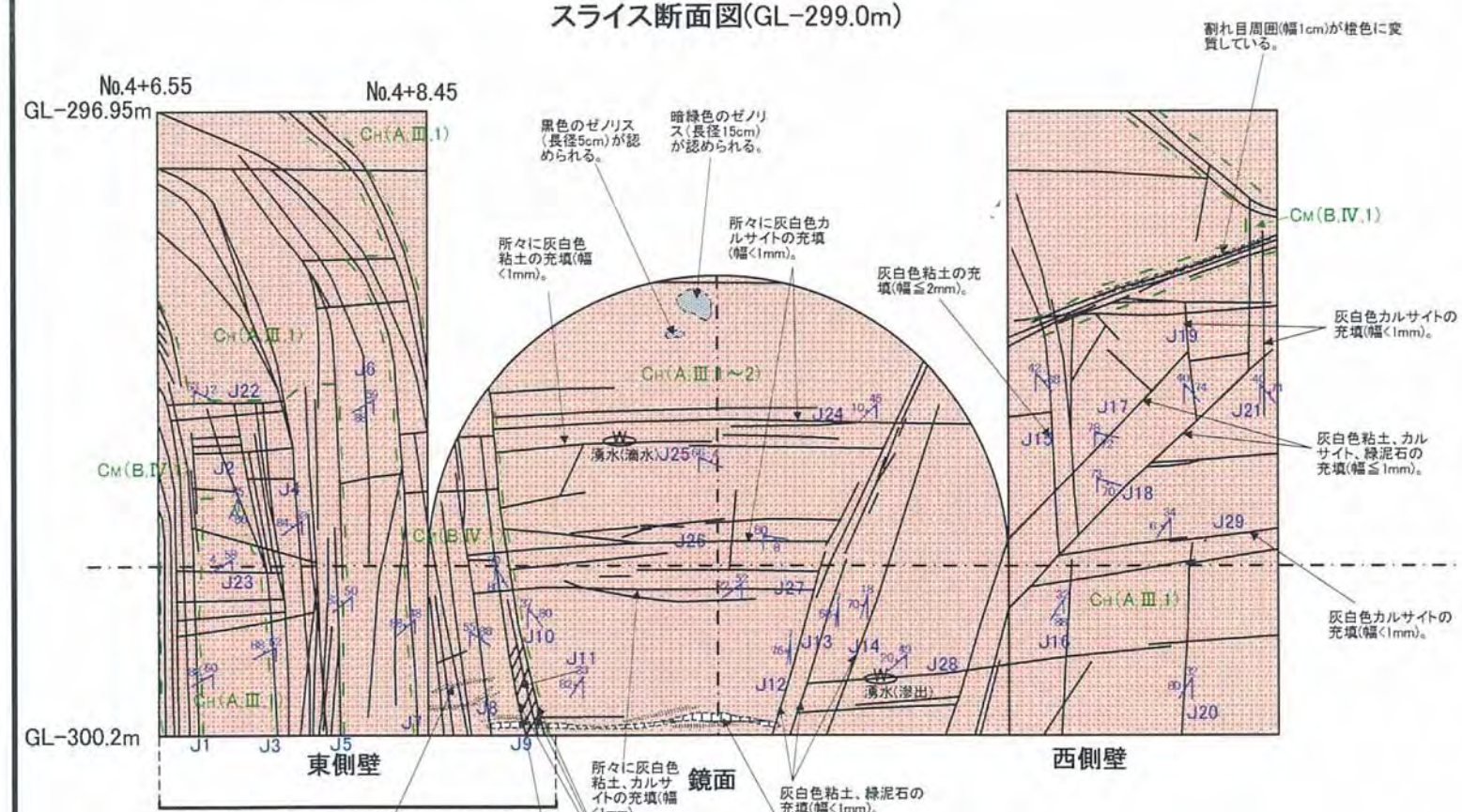
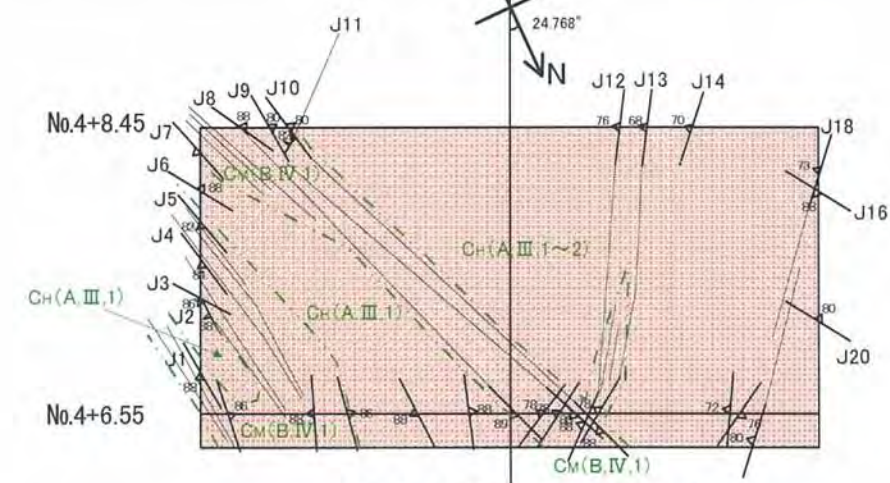
番号: B3-請負-計測工(地質)- 00041

シート番号	159	日時	2008/12/10 17:35~20:00	位置・深度	300B ST3-4 G.L.-296.95~-300.20m No.4+6.55~No.4+8.45m	観察・撮影者	
-------	-----	----	---------------------------	-------	--	--------	--

- 凡例
- 花崗岩
 - 変質部
 - 湧水
 - 割れ目
 - 割れ目の傾斜・計測角
 - ゼノリス
 - 黒雲母密集部
 - 岩級区分境界
 - ペグマタイト脈

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 清水・鹿島・前田特定建設工事共同企業体
現場代理人



岩種	花崗岩	風化	α(新鮮)	RMR値	-296.95~-300.2m 60
岩相	中~粗粒花崗岩(灰白色)	変質	1(非変質) (一部2(弱変質)を含む)	岩石試料番号	なし
		湧水	滲出 滴水	採水試料番号	なし
		電研式岩級	-296.95~-300.2m CH(A,III,1~2) -296.95~-300.2m CM(B,IV,1)		

特記事項

- 中~粗粒花崗岩(灰白色): 等粒状の黒雲母花崗岩。鉱物の粒径は石英が5mm前後でしばしば複数個が1cm程度の集合体をなす。長石類は3~20mmである。黒雲母は1~10mmである。有色鉱物の割合は7~10%程度である。鏡面下部にペグマタイト脈や黒雲母の層状の密集が、また、上部に暗緑色、黒色のゼノリスが認められる。
- ハンマーでの打撃音は金属音~少し濁った音であり、岩盤は比較的堅硬である。変質は一部の割れ目の周囲に限られ、壁面全体では岩石は概ね新鮮である。岩盤等級は、高角度割れ目が卓越する東側壁は割れ目間隔が数cm~20cmであるためCH級、その他の壁面はCM級である。
- 主な割れ目として29条を抽出した。東側壁の高角度割れ目はNNW系で、挟持物は灰白色粘土、カルサイト、緑泥石である。低角度割れ目は灰白色粘土、カルサイトを挟持するが、充填率は少ないものが多い。また、一部の高角度割れ目は低角度割れ目で止まる(J3等)。鏡面ではE側にNNW系高角度割れ目、中央に高角度割れ目で止まる低角度割れ目(J25, J26, J27等)、W側にNE系高角度割れ目が認められる。J9とJ10の間にはNE系高角度割れ目(J11)が発達する。西側壁面では、上部に橙色変質を伴う割れ目が認められる。
- 湧水は、J25で湧水、J28で湧出がみられる。その他の壁面でも湧出程度の湧水が存在する可能性はある。
- 当面所はボーリング構坑であり、進行する方向はおおよそS25°Wである。
- 壁面観察は鏡面から1.9m離れた場所より目視観察で実施した。

B工区地質記載シート

番号: B3-請負-計測工(地質)- 00041

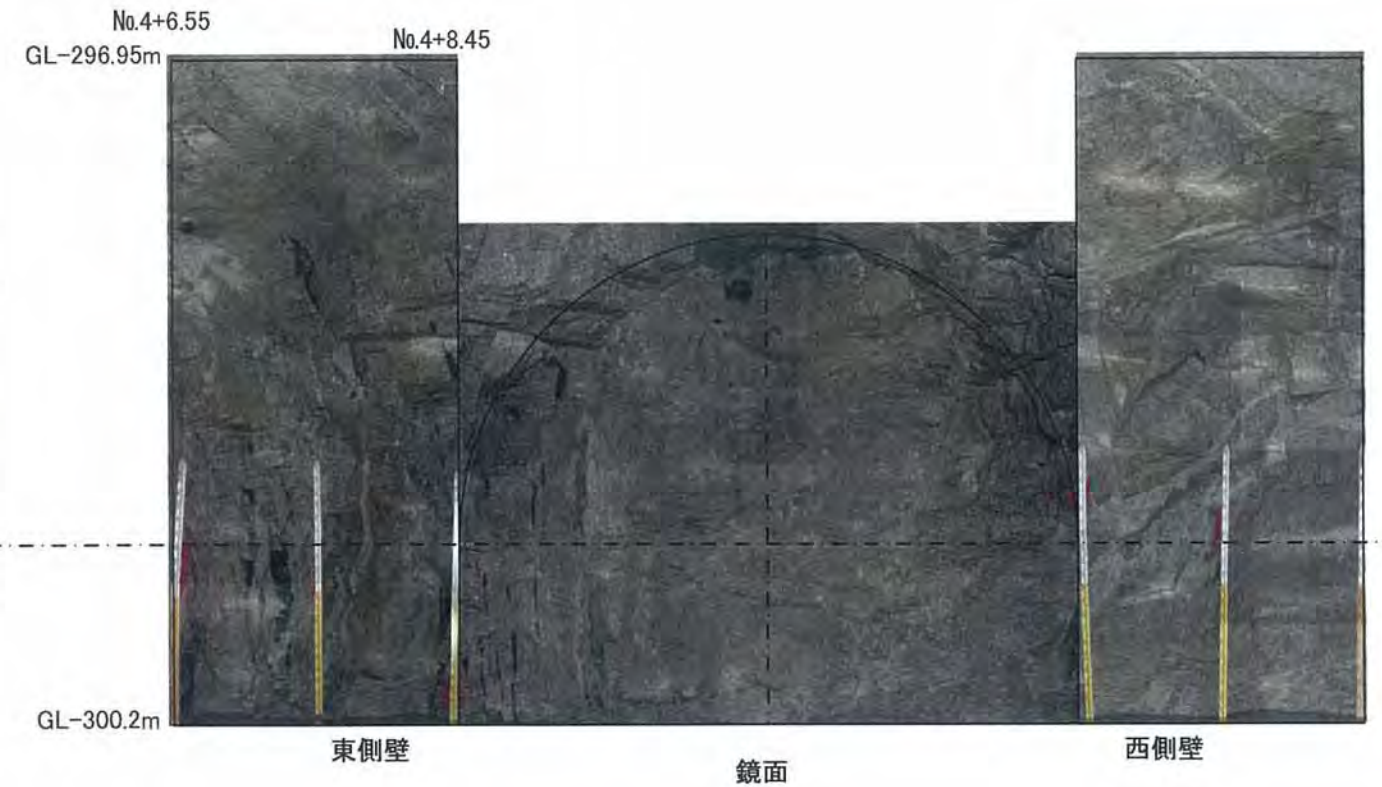
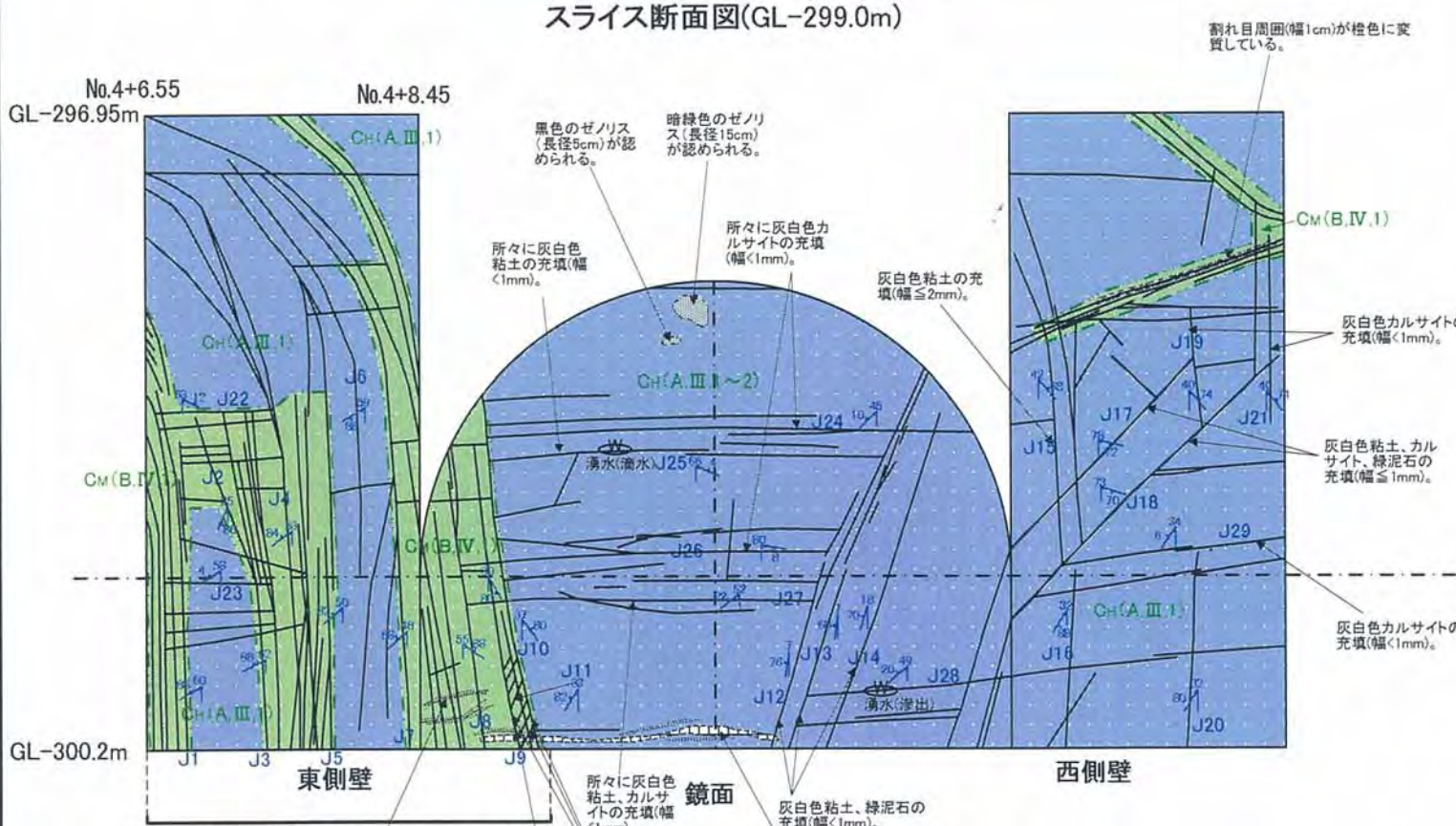
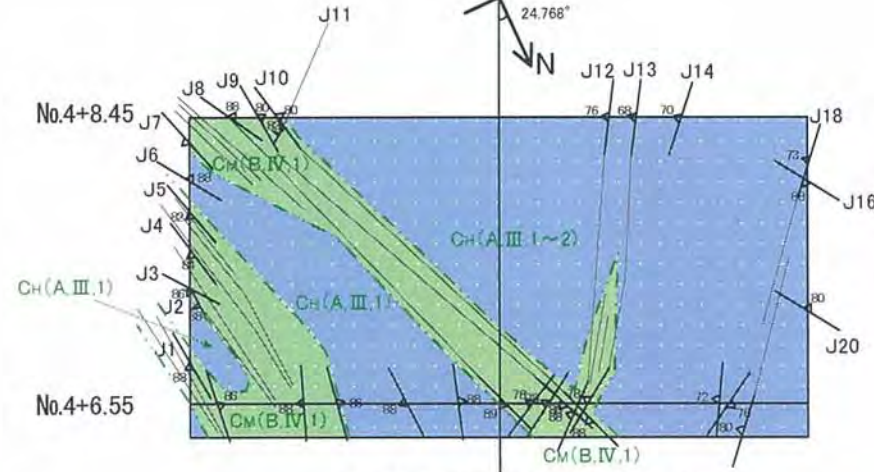
シート番号	159	日時	2008/12/10 17:35~20:00	位置・深度	300B ST3-4 GL-296.95~300.20m No.4+6.55~No.4+8.45m	観察・撮影者	
-------	-----	----	---------------------------	-------	---	--------	--

凡例

- : C₁級
- : C₂級
- 〰 : 変質部
- 〰 : 割れ目の傾斜・計測角
- 〰 : 黒雲母密集部
- 〰 : 割れ目
- 〰 : 割れ目の傾斜・計測角
- 〰 : 岩級区分境界
- 〰 : 湧水
- 〰 : ゼノリス
- 〰 : ベグマタイト脈

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 清水・鹿島・前田特定建設工事共同企業体
現場代理人



岩種	花崗岩	風化	α(新鮮)	RMR値	-296.95~300.2m 60	特記事項 ・中~粗粒花崗岩(灰白色): 等粒状の黒雲母花崗岩。鉱物の粒径は石英が5mm前後でしばしば複数個が1cm程の集合体をなす。長石類は3~20mmである。黒雲母は1~10mmである。有色鉱物の割合は7~10%程度である。鏡面下部にベグマタイト脈や黒雲母の層状の密集が、また、上部に暗緑色、黒色のゼノリスが認められる。 ・ハンマーでの打撃音は金属音~少し濁った音であり、岩盤は比較的堅硬である。変質は一部の割れ目の周囲に限られ、壁面全体では岩石は概ね新鮮である。岩盤等級は、高角度割れ目が卓越する東側壁は割れ目間隔が数cm~20cmであるためC ₁ 級、その他の壁面はC ₂ 級である。 ・主な割れ目として29条を抽出した。東側壁の高角度割れ目はNNW系で、挟持物は灰白色粘土、カルサイト、緑泥石である。低角度割れ目は灰白色粘土、カルサイトを挟持するが、充填率は少ないものが多い。また、一部の高角度割れ目は低角度割れ目で止まる(J3等)。鏡面ではE側にNNW系高角度割れ目、中央に高角度割れ目、上部に低角度割れ目(J25、J26、J27等)、N側にNE系高角度割れ目が認められる。J9とJ10の間にはNE系高角度割れ目(J11)が発達する。 ・西側壁では、上部に橙色変質を伴う割れ目が認められる。 ・湧水は、J25で湧水、J28で湧出がみられる。その他の壁面でも湧出程度の湧水が存在する可能性はある。 ・当箇所はボーリング構坑であり、進行する方向はおおよそS25°Nである。 ・壁面観察は鏡面から1.9m離れた場所より目視観察で実施した。
岩相	中~粗粒花崗岩(灰白色)	変質	1(非変質) (一部2(弱変質)を含む)	岩石試料番号	なし	
		湧水	滲出 滴水	採水試料番号	なし	
		電研式岩級	-296.95~300.2m CH(A,III,1~2) -296.95~300.2m CM(B,IV,1)			

B工区地質記載シート

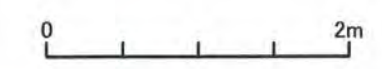
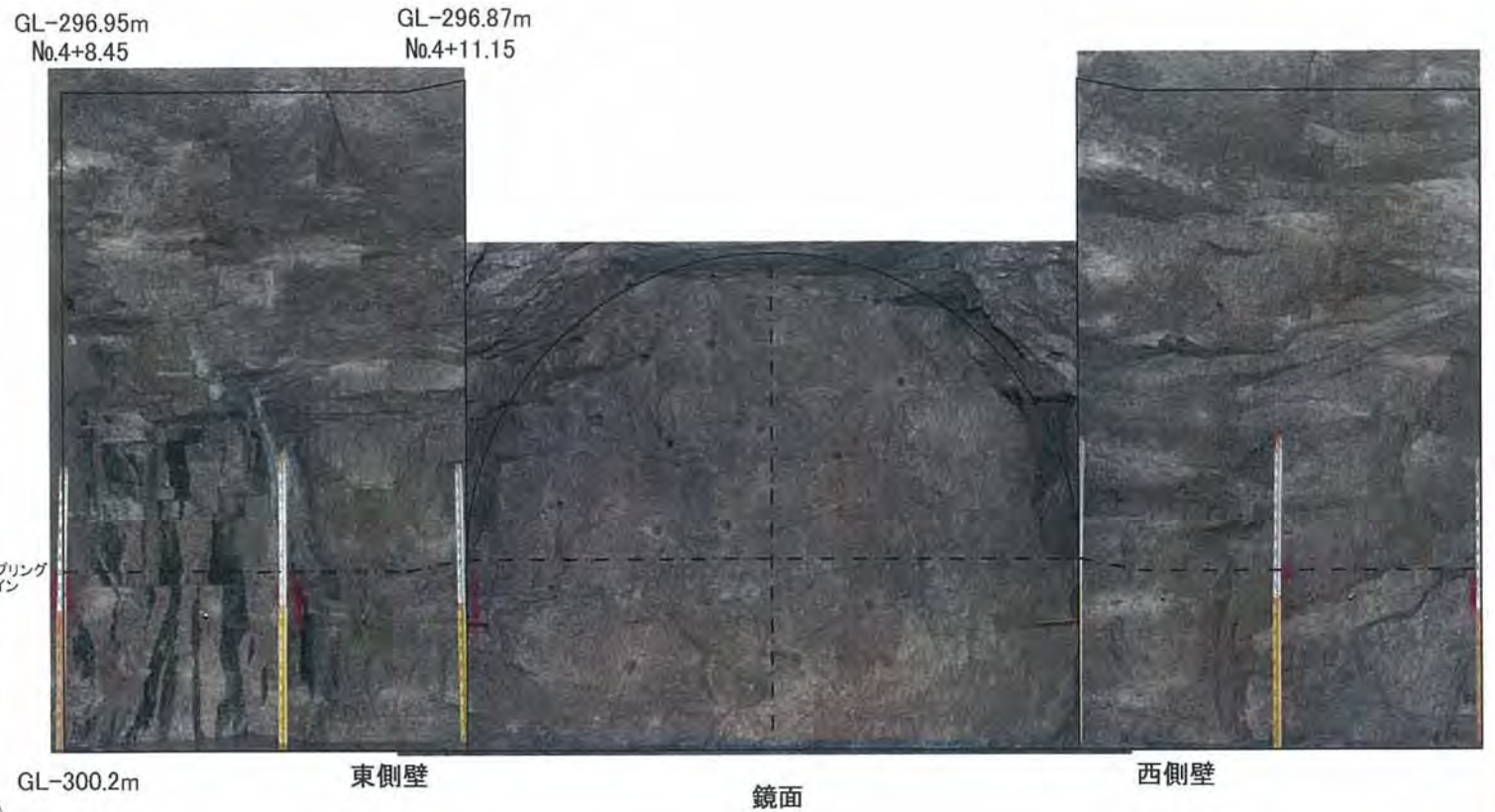
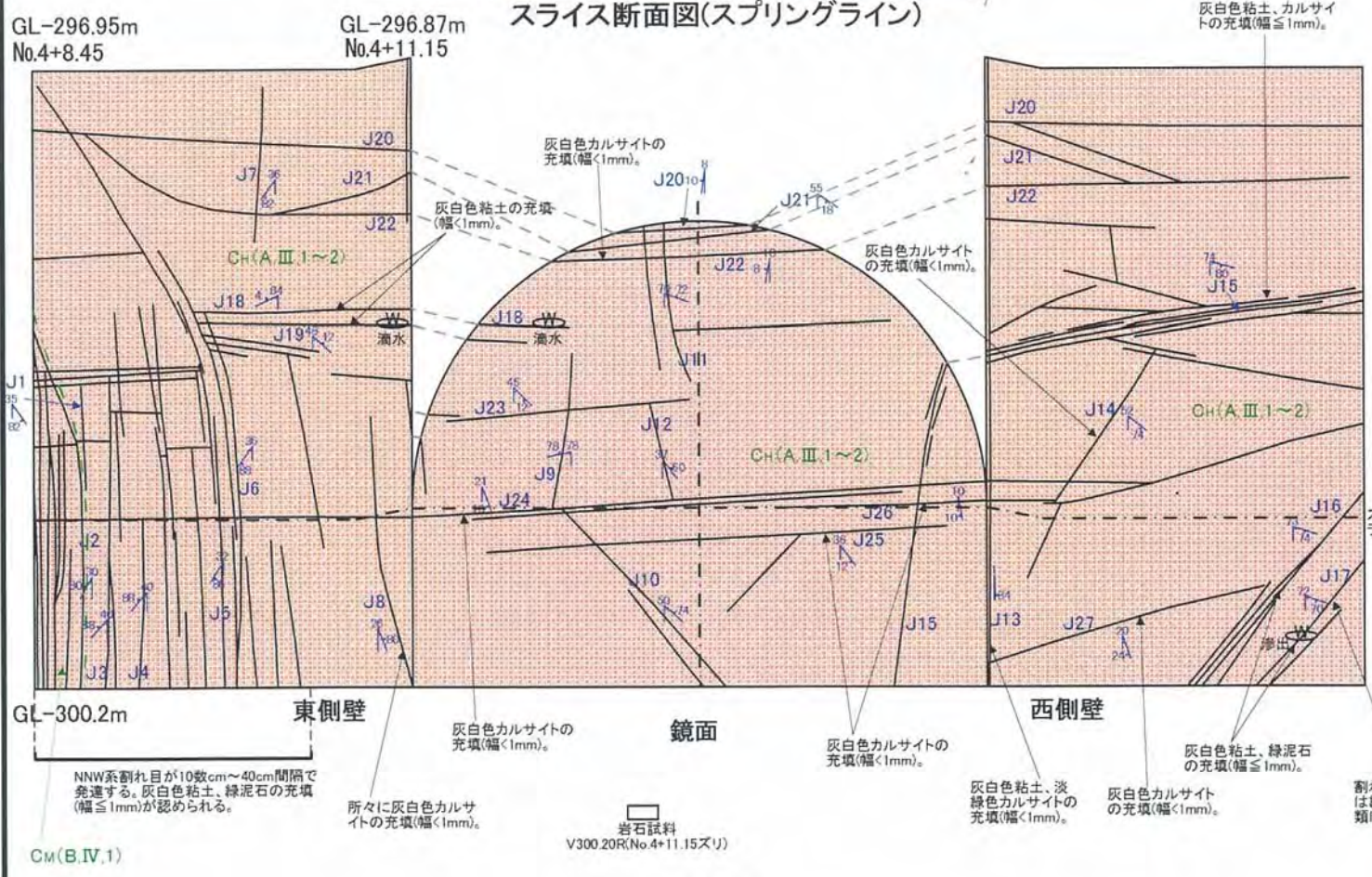
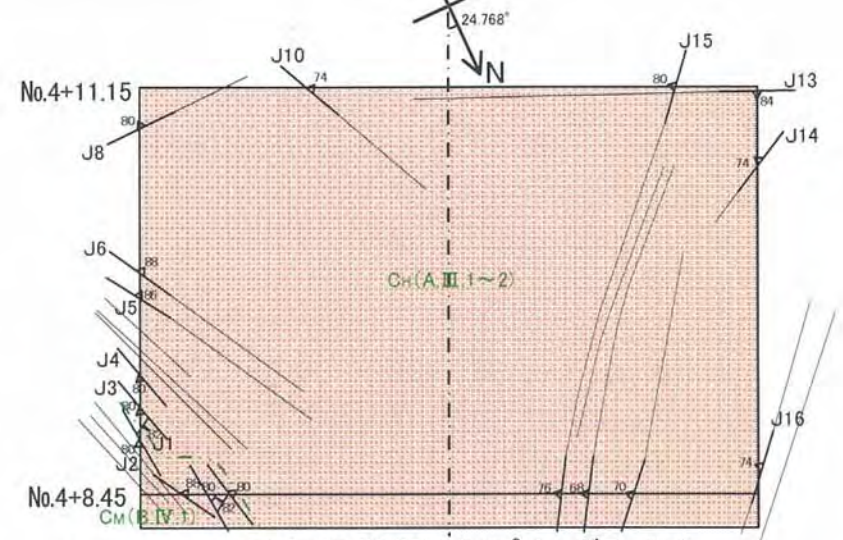
番号: B3-請負-計測工(地質)- 00042

シート番号	160	日時	2008/12/12 20:05~21:30	位置・深度	300B ST5-6 G.L.-296.87~-300.20m No.4+8.45~No.4+11.15m	観察・撮影者	
-------	-----	----	---------------------------	-------	---	--------	--

- 凡例
- 花崗岩
 - 割れ目
 - 岩石試料
 - 割れ目の傾斜・計測角
 - 岩級区分境界
 - 湧水

総括監督員	主任監督員	監督員
-------	-------	-----

請負人 清水・鹿島・前田特定建設工事共同企業体
現場代理人



岩種	花崗岩	風化	α(新鮮)	RMR値	-296.87~-300.2m 68
岩相	中~粗粒花崗岩(灰白色)	変質	1(非変質)	岩石試料番号	V300.20R(No.4+11.15ズリ) (中~粗粒花崗岩+挟在物)
		湧水	滲出 滴水	採水試料番号	なし
		電研式岩級	-296.87~-300.2m CH (A.III.1~2) -297.7~-300.2m CM (B.IV.1)		

特記事項

- 中~粗粒花崗岩(灰白色): 等粒状の黒雲母花崗岩。鉱物の粒径は石英が5mm前後でしばしば複数個が1cm程度の集合体をなす。長石類は3~20mmである。黒雲母は1~10mmである。有色鉱物の割合は7~10%程度である。
- ハンマーでの打撃音は金属音~少し濁った音であり、岩盤は比較的堅硬である。割れ目の周囲の変質はみられず、壁面全体では岩石は概ね新鮮である。岩盤等級は、高角度割れ目が卓越する東側壁の一部は割れ目間隔が10cm程度であるためCM級、その他の壁面のほとんどはCH級である。
- 主な割れ目として27条を抽出した。主に東側壁に灰白色粘土、緑泥石を挟在する高角度割れ目が卓越する。壁面全体に低角度割れ目がみられる。
- 東側壁では、前回観察から引き続きのNNW系高角度割れ目発達部がみられ、灰白色粘土、緑泥石を挟在する。NNW系高角度割れ目(11)高角度割れ目もみられる。また、低角度割れ目は高角度割れ目で止まるものと交差するもの両方がみられる。鏡面では低角度割れ目が多くみられ、高角度割れ目は連続性が悪く挟在物も少ない。西側壁では、壁面に低角度で交わるNE系傾斜の高角度割れ目(15)がみられる。
- J17の割れ目周囲では黒雲母は緑泥石化し長石類は緑色化する。
- 湧水は、鏡面左側のJ18、J19で湧き、西側壁下部のJ17で湧出がみられる。その他の壁面でも湧出程度の湧水が存在する可能性はある。
- 当箇所はボーリング横坑であり、進行する方向はおおよそS25°Wである。
- 壁面観察は鏡面から2.7m離れた場所より目視観察で実施した。

B工区地質記載シート

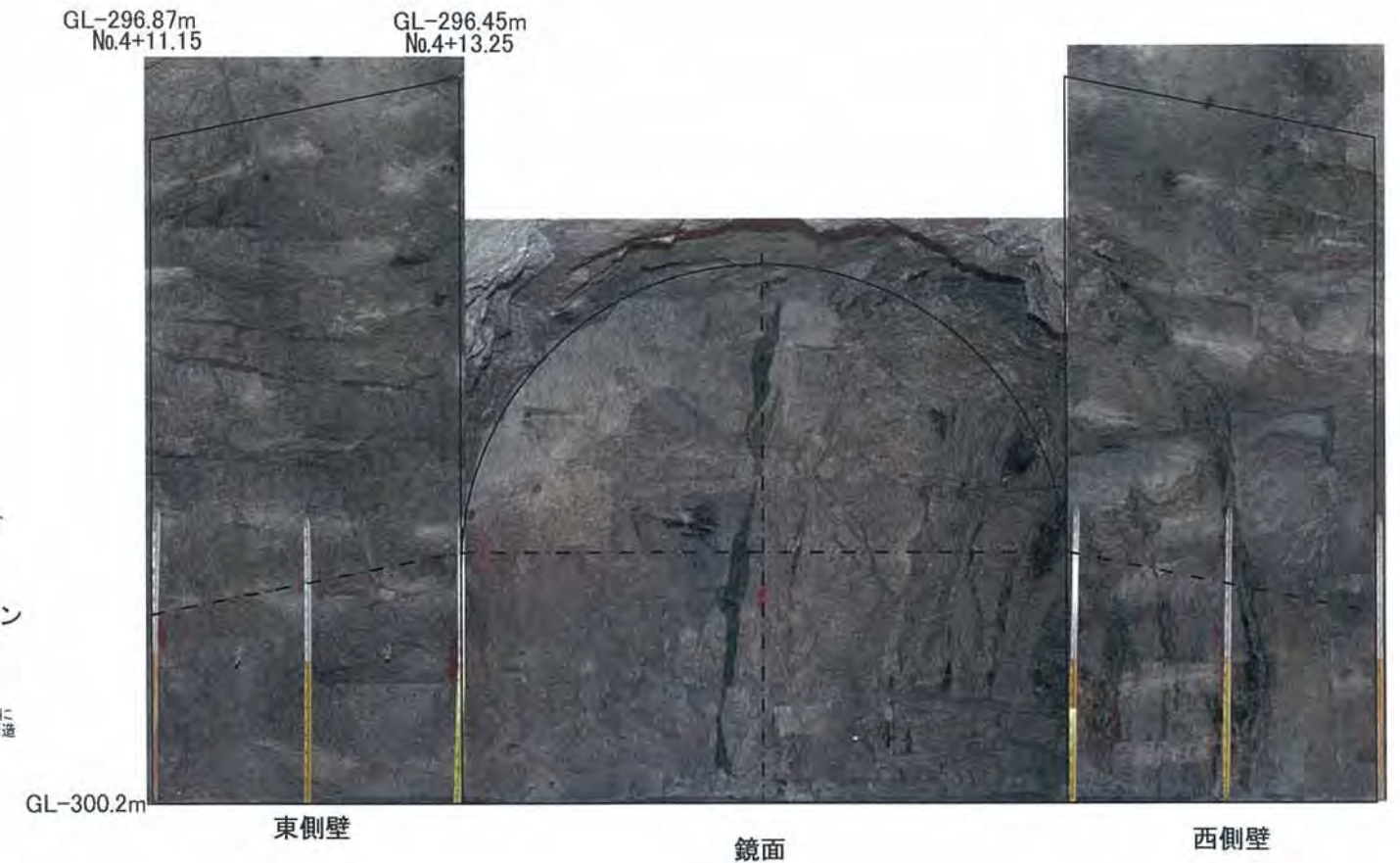
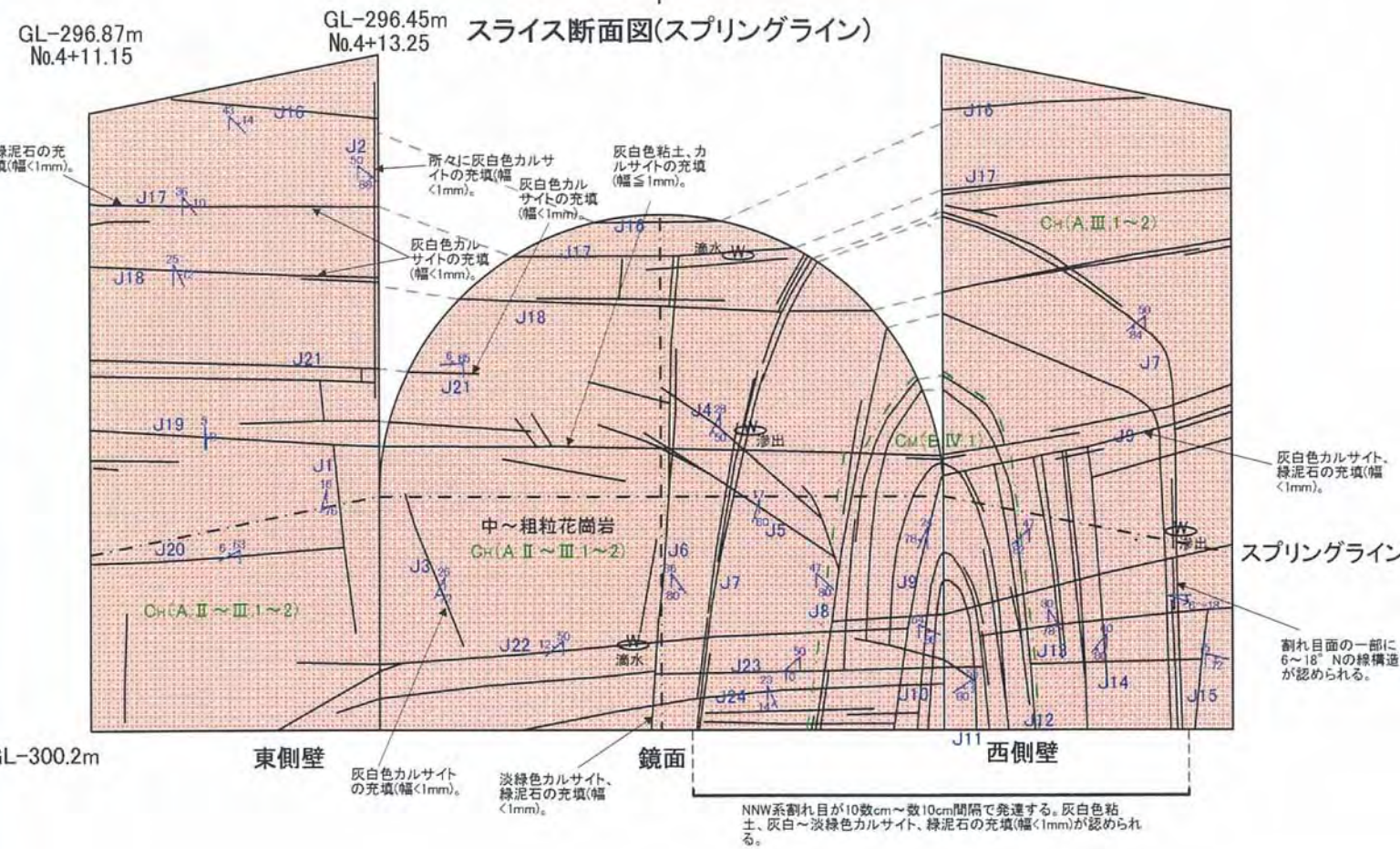
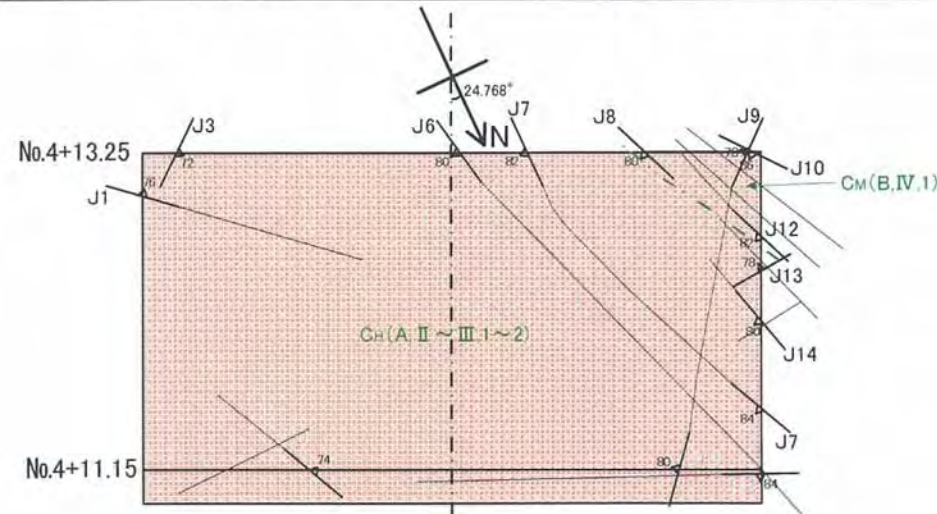
番号: B3-請負-計測工(地質)- 00043

シート番号	161	日時	2008/12/16 14:40~16:20	位置・深度	300B ST7-8 GL-296.45~300.20m No.4+11.15~No.4+13.25m	観察・撮影者	
-------	-----	----	---------------------------	-------	---	--------	--

- 凡例
- 花崗岩
 - 割れ目
 - 割れ目の傾斜・計測角
 - 岩級区分境界
 - 湧水
 - 線構造の傾斜角

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 清水・鹿島・前田特定建設工事共同企業体
現場代理人



岩種	花崗岩	風化	α (新鮮)	RMR値	-296.45~300.2m 66
岩相	中~粗粒花崗岩(灰白色)	変質	1(非変質)	岩石試料番号	なし
		湧水	滲出 滴水	採水試料番号	なし
		電研式岩級	-296.45~300.2m CH (A, II ~ III, 1~2) -297.80~300.2m CM (B, IV, 1)		

特記事項

- 中~粗粒花崗岩(灰白色): 等粒状の黒雲母花崗岩。鉱物の粒径は石英が5mm前後でしばしば複数個が1cm程の集合体をなす。長石類は3~20mmである。黒雲母は1~10mmである。有色鉱物の割合は7~10%程度である。
- ハンマーでの打撃音は金属音~少し濁った音であり、岩盤は比較的硬である。割れ目の周囲の質質はみられず、壁面全体では岩石は概ね新鮮である。岩盤等級は、西側壁の一部、鏡面のW側は高角度割れ目が卓越し、間隔が10cmであるためCM級、その他の壁面のほとんどはCH級である。
- 主な割れ目として24条を抽出した。主に西側壁に灰白色粘土、灰白~淡緑色カルサイト、緑泥石を挟む高角度割れ目が卓越する。壁面全体に低角度割れ目がみられる。
- 東側壁では、灰白色カルサイトを挟むS傾斜の低角度割れ目(J17, J18)が上部にみられ、高角度割れ目は連続性が乏しい。鏡面では、W側半分は割れ目が多く見られ、高角度割れ目はNNW系高傾斜が卓越する。J9はNE系高角度南傾斜で前壁面から連続する割れ目であり、NNW系高角度割れ目と交差する。西側壁では、壁面のほぼ全体にNNW系の高角度割れ目がみられる。西側壁中部にはNNW系高角度、EW系高角度割れ目(J13)がみられ、壁面は楔状を呈する。
- J7の割れ目面の一部には6~18° Nの線構造が認められる。
- 湧水は、J17, J22で湧水、J7で湧出がみられる。その他の壁面でも湧出程度の湧水が存在する可能性はある。
- 当面所はボーリング横坑であり、進行する方向はおおよそS25° Wである。
- 壁面観察は鏡面から2.1m離れた場所より目視観察で実施した。

B工区地質記載シート

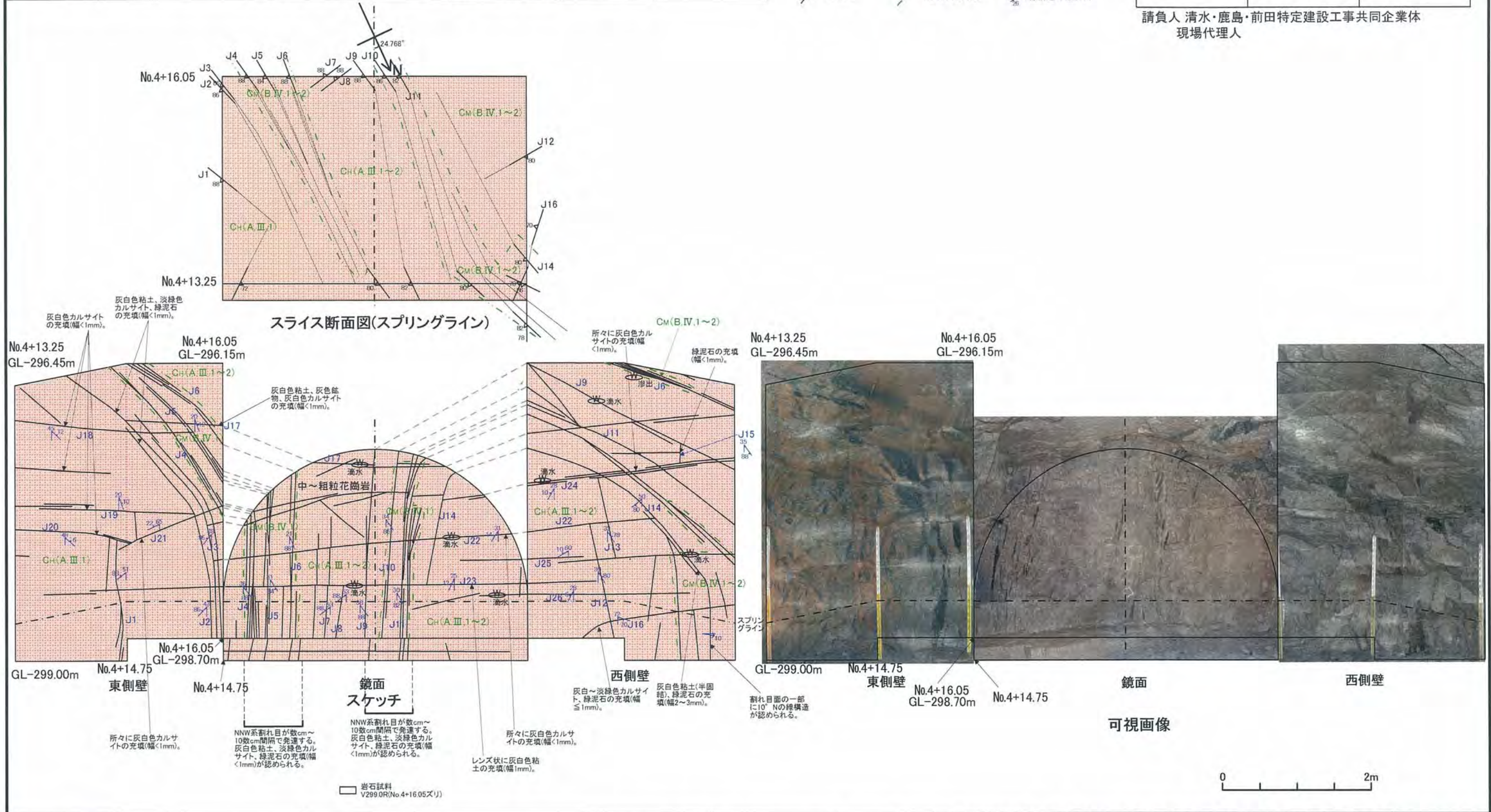
番号: B3-請負-計測工(地質)- 00044

シート番号	162	日時	2008/12/23 21:00~22:55	位置・深度	300B ST9-10 G.L.-296.15~299.0m No.4+13.25~No.4+16.05m	観察・撮影者	
-------	-----	----	---------------------------	-------	---	--------	--

- 凡例
- 花崗岩
 - 割れ目
 - 割れ目の傾斜・計測角
 - 岩級区分境界
 - 湧水
 - 線構造の傾斜角

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 清水・鹿島・前田特定建設工事共同企業体
現場代理人



岩種	花崗岩	風化	α(新鮮)	RMR値	-296.15~-299.0m 67	特記事項 ・中～粗粒花崗岩(灰白色): 等粒状の黒雲母花崗岩。鉱物の粒径は石英が5mm前後でしばしば複数個が1cm程の集合体をなす。長石類は3~20mmである。黒雲母は1~10mmである。有色鉱物の割合は7~10%程度である。 ・ハンマーでの打撃音は金属音~少し濁った音であり、岩盤は比較的堅硬である。割れ目の周囲の変質はみられず、壁面全体では岩石は概ね新鮮である。岩盤等級は、東側壁の一部、鏡面の中央部とE側、西側壁の一部は高角度割れ目が卓越し、間隔が10数cmであるためCM級、その他の壁面のほとんどはCH級である。 ・主な割れ目として26条を抽出した。主に灰白色粘土、淡緑色カルサイト、緑泥石を挟在するNNW系高角度割れ目が卓越する。また、壁面全体に低角度割れ目がみられる。 ・東側壁では、壁面上部や鏡面側にNNW系東傾斜の高角度割れ目がみられ、割れ目は分岐するものが多い。低角度割れ目は灰白色カルサイトを挟在する。鏡面では、高角度割れ目が多く見られ、高角度割れ目はNNW系東傾斜が卓越する。低角度割れ目は高角度割れ目と交差するものが多く、湧水程度の湧水が認められる。西側壁では、上部にNNW系東傾斜の高角度割れ目が卓越し、下部ではNNW系と交差するNE系(J16)高角度割れ目が壁面を形成する。低角度割れ目の挟在物は少なく、連続性がよいものが多いとみられる。 ・J14の割れ目面の一部には10°Nの線構造が認められる。 ・湧水は、J9、J17、J22、J23、J24、J25、J26で湧水、J6で湧出がみられる。その他の割れ目でも湧出程度の湧水が存在する可能性はある。 ・当箇所はボーリング掘削であり、進行する方向はおおよそS25°Wである。 ・壁面観察は鏡面から2.8m離れた場所より目視観察で実施した。
岩相	中～粗粒花崗岩(灰白色)	変質	1(非変質)	岩石試料番号	V299.0R(No.4+16.05ズリ)(中～粗粒花崗岩+挟在物)	
		湧水	滲出 滴水	採水試料番号	なし	
		電研式岩級	-296.15~-299.0m CH(A,III,1~2) -296.15~-299.0m CM(B,IV,1~2)			

B工区地質記載シート

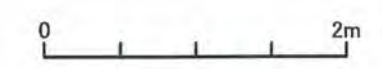
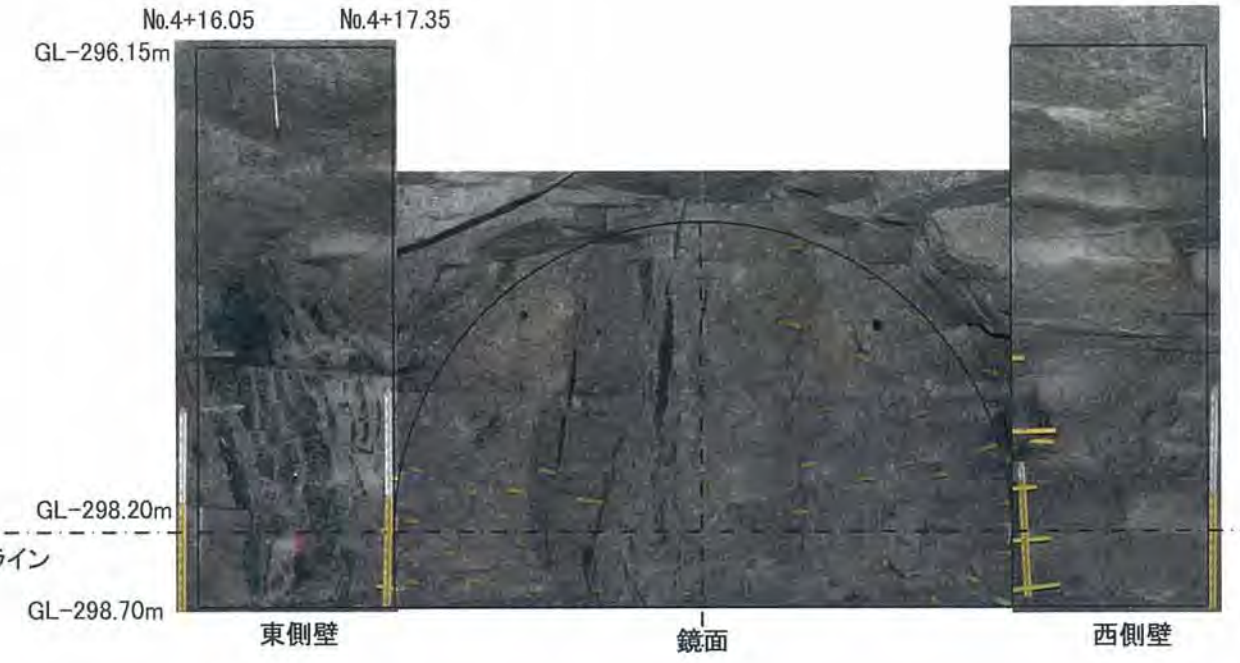
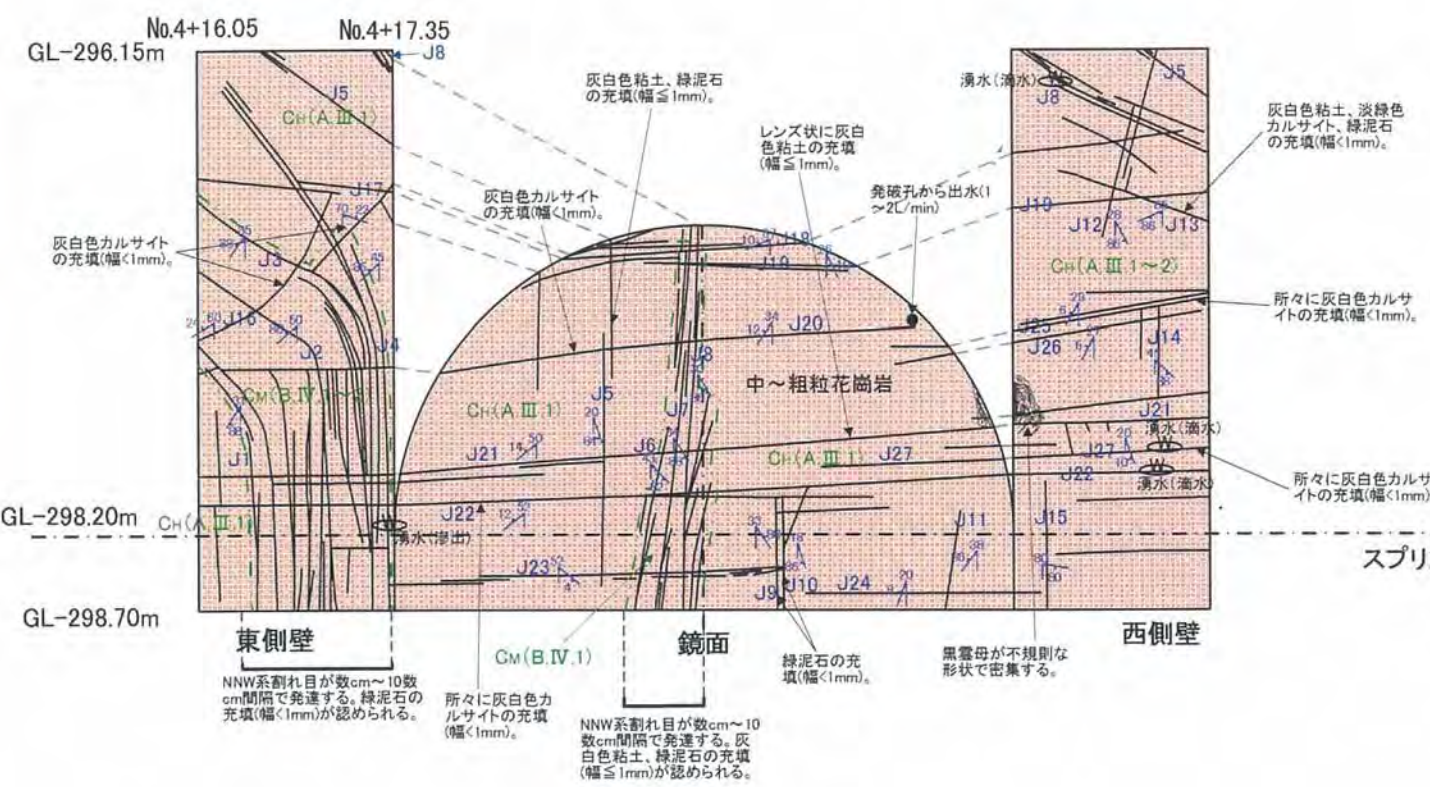
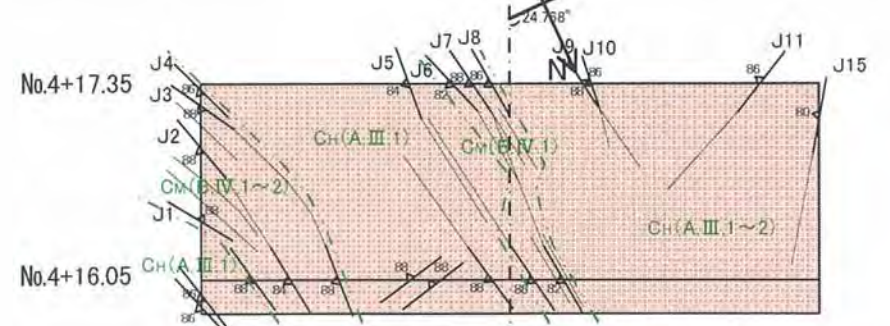
番号: B3-請負-計測工(地質)- 00045

シート番号	163	日時	2008/12/25 16:50~18:30	位置・深度	300B ST11 G.L.-296.15~298.70m No.4+16.05~No.4+17.35m	観察・撮影者	
-------	-----	----	---------------------------	-------	--	--------	--

- 凡例
- 花崗岩
 - 割れ目
 - 黒雲母密集部
 - 割れ目の傾斜・計測角
 - 岩級区分境界
 - 湧水
 - 割孔跡

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 清水・鹿島・前田特定建設工事共同企業体
現場代理人



岩種	花崗岩	風化	α(新鮮)	RMR値	-296.15~298.70m 62
岩相	中~粗粒花崗岩(灰白色)	変質	1(非変質)	岩石試料番号	なし
		湧水	滲出 滴水	採水試料番号	なし
		電研式岩級	-296.15~298.70m CH(A,III,1~2) -296.30~298.70m Cm(B,IV,1~2)		

特記事項

- 中~粗粒花崗岩(灰白色) 等粒状の黒雲母花崗岩。鉱物の粒径は石英が5mm前後でしばしば複数個が1cm程の集合体をなす。長石類は3~20mmである。黒雲母は1~10mmである。有色鉱物の割合は7~10%程度である。西側壁に不規則な形で黒雲母の密集部がみられる。
- ハンマーでの打撃音は金属音~少し濁った音であり、岩盤は比較的堅硬である。割れ目の周囲の空質はみられず、壁面全体では岩石は概ね新鮮である。岩壁等級は、鏡面の中央部と東側壁は高角度割れ目が卓越し、間隔が10数cmであるためO級、その他の壁面はD級である。
- 主な割れ目として27条を抽出した。主に東側壁に緑泥石を挟持するNNW系の高角度割れ目が卓越する。また、壁面全体に低角度割れ目がみられる。
- 東側壁では、壁面のほぼ全体に緑泥石を挟持するNNW系の高角度割れ目が卓越し、その多くが東傾斜である。低角度割れ目は高角度割れ目で止まるもの、連続するもの両方がみられる。また、低角度割れ目には挟持物は少なく、主にカルサイトを挟持する。鏡面では、中央部にNNW系東傾斜の高角度割れ目がみられる。灰白色粘土、緑泥石を挟持し進行して発達する。低角度割れ目は多くがS傾斜であり、連続性のよいものが多くみられる。西側壁では、壁面上部にNNW系高角度割れ目(J5等)とそれに交差するEW系高角度割れ目(J12等)がみられる。
- 湧水は、J8、J22、J27で湧水、J4で湧出がみられる。その他の壁面でも湧出程度の湧水が存在する可能性はある。また、鏡面右上部分の発破孔より1~2L/minの出水が認められた。
- 当箇所はボーリング横坑であり、進行する方向はおよそS25°Wである。
- 壁面観察は鏡面から1.3m離れた場所より目視観察で実施した。

B工区地質記載シート

番号: B3-請負-計測工(地質)- 00048

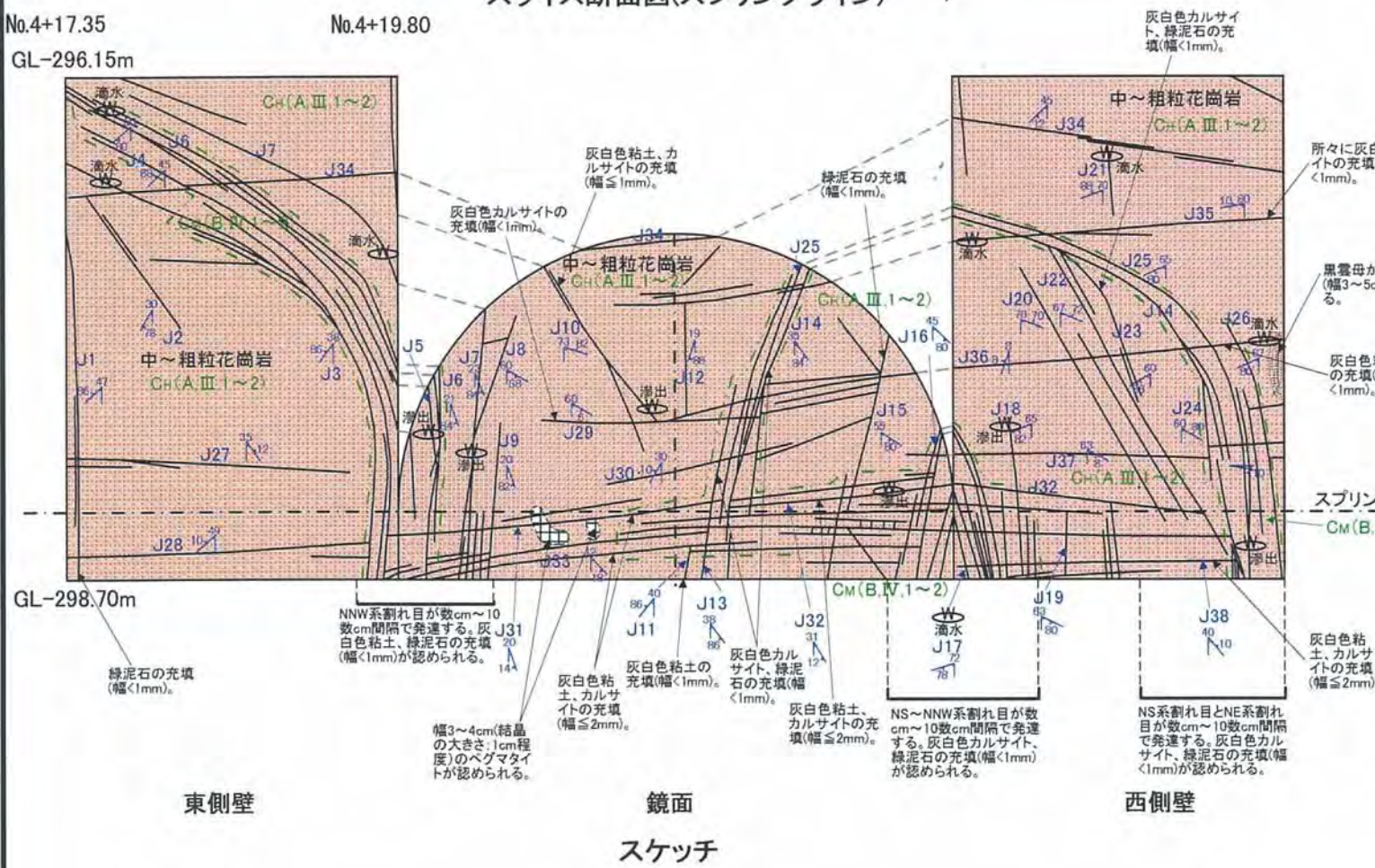
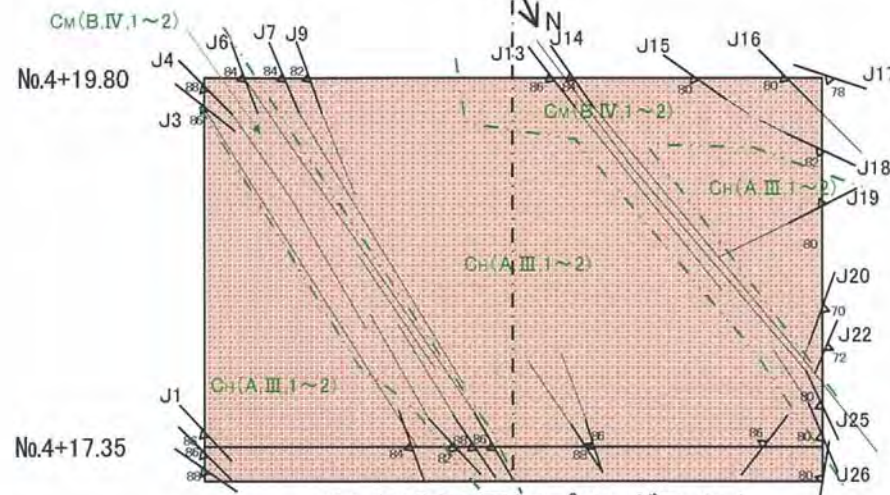
シート番号	166	日時	2009/1/16 12:05~14:15	位置・深度	300B ST12-13 GL-296.15~-298.70m No.4+17.35~No.4+19.80m	観察・撮影者	
-------	-----	----	--------------------------	-------	--	--------	--

凡例

	: 花崗岩		: 割れ目の傾斜・計測角		: 湧水
	: 割れ目		: 岩級区分境界		: 線構造の傾斜角
	: 黒雲母密集部		: ベグマタイト脈		

総括監督員	主任監督員	監督員

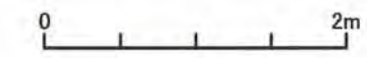
請負人 清水・鹿島・前田特定建設工事共同企業体
現場代理人



岩種	花崗岩	風化	α (新鮮)	RMR値	-296.15~-298.70m 63
岩相	中~粗粒花崗岩(灰白色)	変質	1(非変質)	岩石試料番号	なし
		湧水	滲出 滴水	採水試料番号	なし
		電研式岩級	-296.15~-298.70m Ch (A,III,1~2) -296.15~-298.70m Cm (B,IV,1~2)		

特記事項

- 中~粗粒花崗岩(灰白色): 等粒状の黒雲母花崗岩。鉱物の粒径は石英が5mm前後でしほれば複数個が1cm程の集合体をなす。長石類は3~20mmである。黒雲母は1~10mmである。有色鉱物の割合は7~10%程度である。鏡面にベグマタイト(幅3~4cm)、西側壁に不規則な形で黒雲母の密集部がみられる。
- ハンマーでの打撃音は金属音~少し濁った音であり、岩質は比較的堅硬である。割れ目の周囲に変質はみられず、壁面全体では岩石は概ね新鮮である。岩盤等級は、鏡面の右側、左端と東側壁、西側壁の一部は高角度割れ目、鏡面の右下部~西側壁の一部は低角度割れ目が卓越し、間隔が10数cmであるためC級、その他の壁面はD級である。
- 主な割れ目として38条を抽出した。主に東側壁の一部、鏡面の左端および右側、西側壁の一部に緑泥石を挟む高角度割れ目が卓越する。また、壁面全体に低角度割れ目がみられ、鏡面下部では割れ目間隔が狭い。
- 東側壁では、壁面上部から右端に灰白色粘土、緑泥石を挟む高角度割れ目が卓越し、その多くが東傾斜である。低角度割れ目は高角度割れ目と交差するもの両方がみられる。また、低角度割れ目には挟み物はなく、主にカルサイトを挟む。鏡面では、左端、右側に灰白色粘土~カルサイト、緑泥石を挟むNS~NNW系東傾斜の高角度割れ目がみられ、分岐、雁行が認められる。低角度割れ目は下部で多くみられ、その多くが東傾斜であり、連続性がよい。高角度割れ目で止まるもの、交差するもの両方がみられる。西側壁では、右端から上部にNS~NNW系高角度割れ目とNNW系高角度割れ目と止まるEW系高角度割れ目(J24)がみられる。低角度割れ目は多くが連続性がよい。
- 湧水は、高角度割れ目と低角度割れ目の両方でみられ、J3、J5、J6、J7、J17、J21、J35、J36で湧水、J7、J10、J18、J25、J32で滲出がみられる。その他の壁面でも滲出程度の湧水が存在する可能性がある。
- 当箇所はボーリング横坑であり、進行する方向はおおよそS25°Wである。
- 壁面観察は鏡面から2.45m離れた場所より目視観察で実施した。



B工区地質記載シート

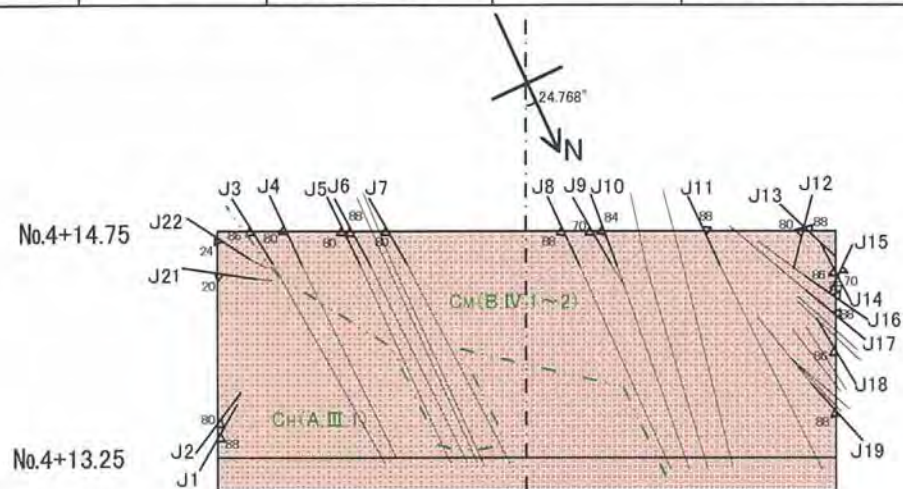
番号: B3-請負-計測工(地質)- 00049

シート番号	167	日時	2009/1/19 23:50~1:50	位置・深度	300B ST14 G.L.-299.00~-300.20m No.4+13.25~No.4+14.75m	観察・撮影者	
-------	-----	----	-------------------------	-------	---	--------	--

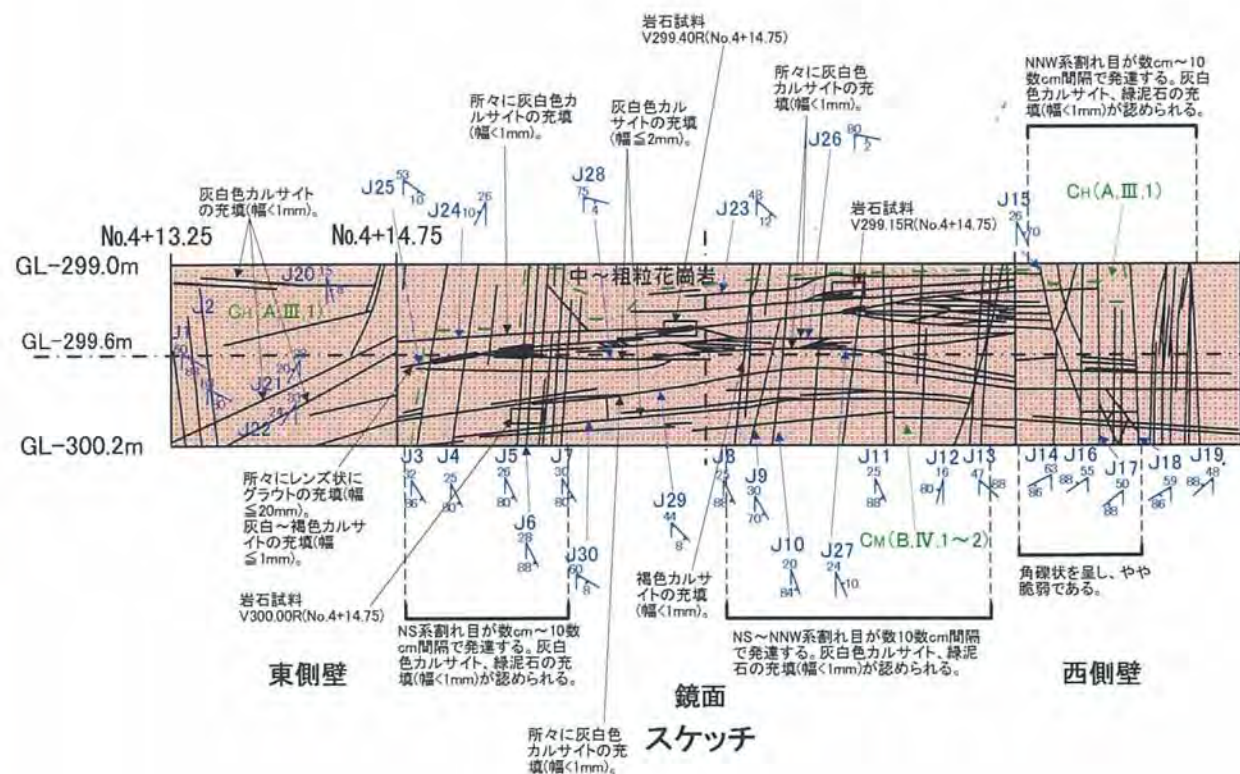
- 凡例
- 花崗岩
 - 割れ目
 - 割れ目の傾斜・計測角
 - 岩級区分境界
 - グラウト充填部
 - 岩石試料

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 清水・鹿島・前田特定建設工事共同企業体
現場代理人



スライス断面図(GL-299.6m)



可視画像



岩種	花崗岩	風化	α (新鮮)	RMR値	-299.0~-300.2m 58	特記事項 <ul style="list-style-type: none"> 中～粗粒花崗岩(灰白色): 等粒状の黒雲母花崗岩。鉱物の粒径は石英が5mm前後でしばしば複数個が1cm程の集合体をなす。長石類は3~20mmである。黒雲母は1~10mmである。有色鉱物の割合は7~10%程度である。 ハンマーでの打撃音は金属音~少し濁った音であり、岩盤は比較的堅硬である。割れ目の周囲に変質はみられず、壁面全体では岩石は概ね新鮮である。岩盤等級は、鏡面、西側壁の大部分で低角度割れ目および高角度割れ目が発達し、間隔が10数cmであるためM級、その他の壁面はH級である。 主な割れ目として30条を抽出した。主に鏡面、西側壁に灰白色カルサイト、緑泥石を挟在するNS~NNW系高角度割れ目が卓越する。また、鏡面、西側壁に低角度割れ目が多くみられ、高角度割れ目と交差する場合が多い。 東側壁では、主に低角度割れ目がみられる。鏡面では、分岐、雁行する低角度割れ目が発達し、鏡面の右側は間隔が狭くなる。挟在物は少なく、主に灰白色カルサイトを挟在し、一部褐色カルサイトもみられる。J25ではグラウトがレンズ状(幅≦20mm)に挟在され、グラウトには縦横線がみられる。西側壁では、NS~NNW系高角度割れ目が卓越し、それに交差するEW系高角度割れ目(J15)もみられる。低角度割れ目は高角度割れ目で止まるものと交差するものの両方がみられ、壁面左側は角礫状を呈し、やや脆弱である。 湧水は、横坑奥からの表面流(当箇所が段差部の下側であるため)により不明であるが、湧出程度の湧水が存在する可能性はある。 当箇所はボーリング横坑であり、進行する方向はおおよそS25°Wである。
岩相	中～粗粒花崗岩(灰白色)	変質	1(非変質)	岩石試料番号	V299.15R(No.4+14.75) (中～粗粒花崗岩+挟在物) V299.40R(No.4+14.75) (中～粗粒花崗岩+挟在物) V300.00R(No.4+14.75) (中～粗粒花崗岩+挟在物)	
		湧水	滲出	採水試料番号	なし	
		電研式岩級	-299.0~-300.2m CH (A.III.1) -299.0~-300.2m CM (B.IV.1~2)			